

暮らすことで恩返しをしたいということ、地元にも貢献したいという思いがありました。苦小牧はアイスホッケーのまちでもありますが、今は小学生でもスポーツをする人が少ないので、親も含めてスポーツの魅力を知らせてもらう必要があると思います。そのためにもスポーツ施設を充実させることや、観客を魅了するようなエンターテインメントを行うことで、スポーツへのファンが増えて、スポーツの魅力を発信していくことを期待します。

齊藤さん…町内会の役員として一つずつ自分のできること、若い視線からどのようにしていけばいいのかを考え貢献できるよう目指していきたいと思います。苦小牧で育つてよかった、苦小牧は子どもを育てやすいと思われるような環境づくりに向けて、これから若い世代の意見を取り入れた住みやすいまちづくりになっていくことを期待します。今後、そういった活動があれば積極的に参加していきたいと思っています。

前出さん…今年から学生として関東に行きますので、すぐに苦小牧で暮らすということはありませんが、いつか工学系の技術を身に付けて苦小牧の若い世代に伝えることで地元貢献したいと思います。今日の対談で、苦小牧の魅力について初めて聞いた話や知らないことが多いと感じました。市外の人だけではなく、苦小牧に住む若い世代の人たちにも苦小牧に関心を持ってもらえるような魅力や情報をもっと発信していくことで、将来、苦小

牧で暮らしたい、苦小牧に貢献したいと思う人が増えていくと思います。

一町田さん…これから結婚して子どもができて働き続けたいと思っています。私の勤務先では子どもを預かる施設ですとか、「シニア&ウーマン」という活動により、お年寄りや女性でも働きやすい環境にすぐ改善されています。そういう企業が増えていくことで、女性が結婚した後も辞めることなく働きやすい職場が増えていき、苦小牧の活性化につながっていくことを期待しています。

市長…就職時期の若い世代が職を求めて札幌市や首都圏に転出することが多く、地元に残ってもらえるような多様な雇用の機会を確保することや、子育てをしながら仕事を続けられる社会環境を整備することは重要な課題だと考えています。

清野…皆さんのお話を伺って苦小牧への愛着を感じましたし、苦小

牧の魅力をはじめ世代を問わず市民の方々にも知っていただけでなく大切なことと感じました。これから



広報紙などを通じて皆さんに知っていただき、苦小牧に暮らしたいと思っていただけるように頑張ります。



市長…これからは人口減少が進んでいく中で、若い世代の方々に苦小牧に暮らしていただくためにも、皆さんからさまざまな提案をいただきました。改めて、皆さんのような若い世代の意見や、さまざまな世代の意見を聞いて今後のまちづくりを進めていかなければならないと実感しました。皆さんの意見を市民の方が読むことで、今後のまちづくりや市政に対する意見や提案などを持っていただくきっかけになればと思います。これからは苦小牧に戻ってきたい、住み続けていきたいと思えるようなまちづくりにチャレンジしてまいります。

最後に、「成人」は一つの節目でありますので、ここから力強い芽を出す節目になるように、ぜひ皆さん頑張ってください。願わくば、苦小牧で暮らしてほしいと思います。